

掲示版
こ~じのう



発行所 (社福)千葉県身体障害者福祉事業団
千葉県千葉リハビリテーションセンター
発行責任者 高次脳機能障害
相談支援体制連携調整委員会
委員長 吉永 勝訓
〒266-0005 千葉市緑区誉田町 1-45-2
TEL 043-291-1831 (代)内178
発行日 2008年6月15日

も く じ

掲示版 第5号

巻頭	高次脳機能障害者支援の体制作り	1
報告		2~3
報告	プロジェクト・班だより	4~5
書籍紹介		5
加藤基金		6
交流会・発表会		7
まめ知識コーナー		7
インフォメーション		8
編集後記		8

高次脳機能障害者支援の体制作り



高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

委員 高橋 伸佳

千葉リハビリテーションセンター高次脳機能障害外来
神経内科



私は現在、千葉県千葉リハビリテーションセンターで、高次脳機能障害の外来診療(評価)を行っています。

高次脳機能障害者に対しては、1)個々の障害の有無や程度の評価、2)障害に応じた訓練プログラムの作成と実施、3)訓練後の支援(社会的・福祉的支援)が必要とされます。しかし、現状では、1)障害があるにもかかわらず、きちんとした評価を受けていない場合が多い、2)評価がなされても十分な訓練ができない(十分な訓練を行なえる施設がない)、3)訓練後の支援が不十分、などの問題があります。これは外来を行なっていて実感されることです。

こうした問題点を改善するためには、高次脳機能障害についての啓発(高次脳機能障害とは何かを特に医師、看護師、リムスタッフなど最も頻繁にかつ直接患者に関わる者がまず認識する)、適切な評価・訓練・支援ができる医療従事者や施設の育成、社会的支援体制の充実、などが求められます。この一連の流れを構築するためには、少数の施設の奮闘だけでは困難です。行政、各地域の医療施設が一体となって千葉県全体として取り組むことが必要でしょう。そこに「高次脳機能支援普及事業」の役割があるものと考えられます。

1 報告

【平成20年度高次脳機能障害支援普及事業委員一覧】

- | | |
|-----|-------------------|
| 委員長 | 吉永 勝 訓(センター長) |
| 委員 | 荏原 実千代(第一小児神経科部長) |
| | 加藤 直 子(第二リハ科部長) |
| | 太田 令 子(地域連携部長) |
| | 宮前 信 彦(リハ療法部長) |
| | 小滝 みや子(更生園支援部長) |
| | 今野 真由美(看護局師長) |

平成20年度高次脳機能障害支援普及事業委員会を4/28に開催し、今年度は上記委員になりました。

【議題】

- (1)平成19年度事業報告書について、事務局か報告致しました。章立て等の全体構成は平成18年度の形式に従うこと、記載の仕方についてはコーディネーター会議で決めていくこと等です。報告書自体は4月20日の日付できあがっており、関係各機関等に送付致しました。必要な方は、ご連絡いただければお送り致します。
- (2)平成20年度事業方針について、国リハ及び関東ブロック会議主催県の埼玉県に送付する内容を確認致しました。
- (3)平成20年度千葉県高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会について、開催日は9月16日(火)18:30~とし、仕事を終わってから集合しやすい千葉駅周辺の会場を探すことになりました。委員会の意向を受けて、千葉駅のペリエホール「芙蓉の間」を予約致しました。

第1回高次脳機能障害支援普及事業委員会

平成20年度



参加呼びかけ対象は医療機関のスタッフを中心にしていくこととし、県内医療機関での評価力の向上を目的とする方向で進めていくこととしてはどうかとの意見が出された承されました。話題提供は昨年度同様二題程度とすることで準備を進めていきます。一つは、県内医療機関における診断の普及に欠かせない検査の簡便化を念頭においた、当センター成人高次脳リハビリプログラムプロジェクトが中心になつて整理を進めている、スクリーニング検査実施結果の検討ではどうかという意見が出ました。もう一つは、地域における具体的な支援の実際を報告することにしてはどうかとの意見がありました。

旭神経内科リハ病院が昨年度から県内のもう一つの拠点機関として指定を受けたこともあり、今後懇話会の運営は当センタースタッフと共同で進めていく体制を考える必要があります。



第1回高次脳機能障害支援普及事業委員の様子



(4) 家族や当事者などを中心に開催してきている交流会について、今年度は開催日を平成21年3月14日(土)とし、会場は当センター大ホールです。内容についてはコーディネーター会議で検討することとしました。

(5) 当センター利用者の生活実態に関する定点調査については、今後継続的にこの調査を続けていくとすると、調査対象の確定基準を明確にする作業が必要です。調査項目の見直しについては、10月くらいに調査用紙配布ができることを目安に検討することといたします。

(6) 成人高次脳リハビリプログラミングプロジェクトについて、大賀医師が退職し新たに加藤(直)医師が高次脳の担当ということではあるが、これまでのように一人の医師が掌握して進めていくということではなく、医師同士でもまた関係スタッフ間でもディスカッションをしながら、役割分担して事業を進めていくこととしたい、との意見がありました。さっそく昨年1年間の高次脳外来患者の継続状況を加藤(直)医師が分析して傾向を出してみるという作業に取りかかりました。その結果、入院することなく外来だけを受診される方は、すでに何らかの日常生活支援を受けておいでの方が多く、支援の不適切さを解消する一つの手段として高次脳機能障害のきちんとした評価をもらうことを目的に受診される方の多いことが判りました。

(7) 小児高次脳リハビリプログラミングプロジェクトで新たに計画している2つの取り組みについての報告がありました。一つは、外来でのグループ訓練の開始についてです。月1回程度のペースで開催し、訓練実施時間は1時間30分とし、基本的には親子別々のグループに分かれての実施となります。

もう一つは、既にアメリカで開発され使用されている小児用遂行機能の行動評価質問紙を使って、センター近隣の幼稚園・小学校・中学校・高等学校の協力を得て日本版を作成するための基礎調査の実施です。

(8) 高次脳機能障害支援マニュアルとしてのパンフレットづくりについては、昨年度作成予定でありましたが、各県で様々な印刷物が発行されており、千葉県らしい内容を盛り込む必要があるのではないかと。19年度に配布したパンフレットでは、県内の診断可能な医療機関の一覧を地図に落とし込んだものを作成致しました。今回作成するマニュアルも家族会の方々の協力を得て内容を作り上げていくと同時に、県内の福祉事業所で高次脳機能障害者を受け入れている所の調査をして、載せではどうかとの提案があり、了承されました。

支援コーディネーター 太田令子

報 告

就労移行支援プロジェクト1

更生園では2007年度から「就労移行支援プロジェクト」として高次脳機能障害の方の支援プログラムにも取り組んでいます。本年度の目的は「職業前リハビリプログラムでの評価及び実践と内容の充実、社会リハビリのための社会生活能力評価表の活用、就労関係機関との積極的な連携、障害認識を深め支援をスムーズに進めるための家族支援、一般就労と福祉的就労との評価基準の検討です。

「働き続ける」ためにはベースとなる生活面での力とそれに対する自己認識が重要です。更生園では高次脳機能障害の特性を中心に生活面と職業面での課題と方向性を整理し支援を進めています。その中で「社会生活能力評価表(当園独自作成)」と「就労移行支援のためのチェックリスト(障害者職業総合センター作成)」を使用し評価しています。プログラム内容は、通勤能力をはじめとする社会生活力アップのプログラム、学習、パソコンなどの訓練とレディネスコース(福祉的就労目的)、職前リハコース(復職及び一般就労目的)があります。レディネスコースでは軽作業やパソコン等を通じ持久力や集中力、時間管理など基本的職業能力の獲得を支援し、職前リハコースでは障害認識を深め、補充方法・対処行動獲得も含めた職業準備性を高める支援を行なっています。これを通じ当事者自らが障害特性に気づき向き合う経験が生まれています。園内プログラムで一定力をつけた後は園外の就労関係機関との連携(実習等)により就労の可能性を広げる支援にも取り組んでいます。今後は実習の開拓、障害理解を深め生活のベースの安定をはかる為の家族支援、一般就労と福祉的就労の線引きとなる評価等の支援プログラムの充実が課題です。

(就労支援 大塚)

プロジェクト・班だより

このコーナーでは
千葉県高次脳機能障害支援センターの活動を時報告していきます

地域生活復帰支援プロジェクト2

昨年度は、利用者の高次脳機能障害に関する評価診断の流れを整理し、障害の把握を行いました。それによると、平成19年度更生園に在籍した方86名の内、高次脳機能障害があると診断された方は58名で、6割以上の方が高次脳機能障害を有していることがわかりました。男女別では男性8割、女性2割と、圧倒的に男性が多く、原因疾患別では脳血管疾患が6割弱、頭部外傷4割弱、脳腫瘍と低酸素脳症合わせて0.5割で、脳血管疾患と頭部外傷の方がほとんどをしめ、男性に頭部外傷が多く、女性に脳血管疾患が多いという結果でした。また支援の連続性を見るために、入園前に支援を受けていた機関を見ました。多くの方は医療機関で支援されており、その他加えて9割以上の方が何らかの機関による支援を受け、その継続で更生園利用につながっていました。しかしどの機関の支援も受けていない方が3名、0.5割いました。このことから、地域には社会復帰出来ずに埋もれている方が多いのではないかと考えられます。さらに退園した方の退園先を見てみました。家庭復帰6割、単身生活2割、グループホーム等に移行した方0.7割と約9割の方が地域生活に復帰されましたが、地域での暮らしを支えていたためにつないだ機関は、多い方で5カ所、平均では3カ所につないでいることがわかりました。多機関にかかわっていたために、退園前後に関係者が集い、どのように連携していくかを話し合う地域ケア会議を行っています。そして地域での生活が安定して送れるようになるまでフォローします。今年度も引き続きこのような実践を行い、地域生活復帰のための支援方法と連携について明らかにしていきたいと考えています。

(地域生活 小滝)

小児高次脳プログラミングプロジェクト班3

当プロジェクトでは春と秋の年2回家族交流会を実施しています。今年も春は「高次脳機能障害交流会」の分科会として行いました。

当日は、高次脳機能障害のあるお子さんのご家族9名様、隣接する特別支援学校の特別支援コーディネーターの先生、センターのスタッフ(医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理発達治療士、ソーシャルワーカー、児童指導員)が参加しました。ご家族同士の懇談を中心に約40分を予定していましたが、終わってみれば2時間近くを経過していました。

まずは自己紹介と近況報告をしていただき、他のご家族に聞きたいことがあれば挙げていただき、それを基にディスカッションへ。

1. やる気を起こすにはどうしたらいいか？
ほめることはポイントですよ！ 興味があ
ることよくは憶えているし違いますね。
できることや得意なことを伸ばし自信を付
けてもらうようにしています。
 2. 一人で通学できるか心配です
少しずつステップを踏んで一人で出来るこ
とを増やす。一緒に取り組むことが大切！
 3. 一人で通学できるか心配です
道順は憶えられる？危険箇所は？ うち
一緒に登下校して何度も練習しました。
学校の先生にも協力してもらいましょうよ。
3. 保険のこと…みなさんどうですか？
経過観察⇨症状固定といわれてしまっ
け
ど…。
- 神奈川リハの親の会は小児のこともよく知って
いるみたいですよ。

実際は、各ご家庭での取り組みを具体的に教えて下さり、ご家族の思いも熱く語られました。それに対して共感したり励まし合ったり…終了後もしばらく話は尽きませんでした。
その様子を拝見していて、一人ではない、同じような悩みを持つ仲間がいると思えることが、大きな力になるのではないかと思いました。(小児高次脳 廣瀬)

成人リハビリプログラミングワーキンググループ4

今年度の課題としては、昨年度からの継続課題とも効果的な高次脳機能障害の評価ができるようなシステムを検討していくことを進めることを中心とし、取り組みをしていくこととしました。

これは、高次脳機能障害の検査を画一的に行うのではなく、どのような検査がどういう目的で行う検査なのかということやスタッフ間でさらに共通認識を高める。それぞれに異なる高次脳機能障害の状態から、検査種目を選択してスクリーニングができるようなシステムづくりの検討を行う。より生活目標に視点を向けた形で検査が実施できるように。生活目標と本人の障害の状態に応じて、評価の組合せのより簡便な形での組合せの構築を検討できる。他の医療機関にも勧められる評価バッテリーの作成につながる。ということを目標にやっています。

この他、前年度からの継続課題でもある当センターで実践してきているリハビリプログラムの確認作業を行うことをしながら、プログラムの充実、拡大を検討することなどをやっていく計画をたてています。
並行して取り掛かるべき課題を多く残しているワーキングなのですが、多くのことに手をつけてしまうと、手をつけただけで一時ストップということになりがちなので優先順位をつけてすすめていきます。

(成人リハ 森戸)

書籍紹介【1】



高次脳に関する書籍をシリーズ化で紹介していきます！

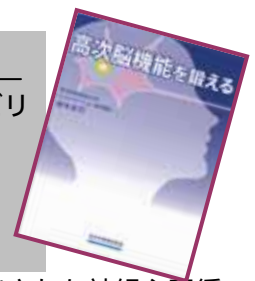
高次脳機能を鍛える

著者 橋本圭司(東京慈恵医科大学 リハビリテーション医学講座)

発行年月日 2008年6月5日

出版社 全日本病院出版会

定価 2,800円(本体価格のみ)



著者たちの臨床の場であるオレンジクラブでの活動を通して得られた知見から生み出された神経心理循環(Neuropsychological Spiral)の概念を基にして整理しなおされています。ある意味では、オレンジクラブでの臨床活動の中間のまとめという感じです。したがって、各臨床症状と障害が一体化してまとめられており、一層高次脳機能障害を「理解する」ことに配慮されているという印象です。非常に解りやすい構成と記述ですから、誰が読んでもヒントを得られる本です。ただし、ここで紹介されている認知訓練は働く場や生活する場に直接導入する類のものではなく、その基礎となる「訓練」であるということは予め知っておくべきでしょう。
(地域連携部 太田)

クラブハウス「すてっぴナナ」を尋ねて

高次脳機能障害家族会ちば 上岡 友子

明るいビルの1階です。「すてっぴナナ」の案内板が控えめに置かれた入口を入ります。目の前のラックに並べられた、クラブハウス利用者作成の、とても可愛い、犬・猫の絵がキガキが私たちを出迎えてくれました。案内されて中に進むと、部屋の中央のテーブルを挟んで数人の青年と女性が、ぶた手に分かれて何やら楽しげにパソコンを検索中です。

お聞きすると、後日予定されている、チョット遠出のレクリエーションを企画中なんだとか、部屋の中の雰囲気もとても明るい。

この部屋に野々垣所長が今まさに、リホームされようとしていた紅茶の販売店だった一室を、そのままの状態で借り受けたというスペースを上手に使っていらっしゃいます。ある時は、企画・会議の場となり、ある時は作業所となるのだそうですが、設立4年という短期間に見事にそれを定着させた所長さんの手腕が佩服です。

さらに、ナナ特製のドッグビスケットの製造に至るまでのエピソードを伺うと、熱意が前進の総べてだと改めて思いました。野々垣所長さんの若さと英断と気概を羨ましく思うと同時に、千葉にも、こんなクラブハウスが欲しい、できたらいいなとひたすら願ひながら、ナナを後にしたのでした。



加藤基金
支援機関を訪ねて

「すてっぴナナ」を見学して

更生園 高山 雅隆

私は「クラブハウスすてっぴナナ」と、「ケアホームふらっと」を見学してきました。

まずは、食事をしました。中国料理と聞いてためらいはしましたが、なんとか大丈夫でした。

すてっぴナナの周りを見ると家ばかりがずらりと並んでいて都会だなーと思いました。すてっぴナナがなかなか見つからず、困りましたが、交番の方に伺ってみたところ、車より歩きのほうが早いとのことでした。やっとのことで、すてっぴナナに着きました。

すてっぴナナでは、犬のクッキーと絵がきを売っていました。店内は昔茶屋を売っていたそうです。そういえばテレビで出てくるような飲み屋にみえなくもないですね。店内を紹介していただき、隣の部屋に連れて行ってもらうと、なんとそこに車いすがあって、絵を描いている人が座っているではありませんか。その人は笑顔で私に話しかけてくれました。私はしばらく話をしました。



「見学会に参加して」

東葛「菜の花」

高次脳機能障害と家族の会 内木千鶴子

驚いたのは、すてっぴナナに通う若者達の顔の明るさです。この日は二班に分かれてネット検索し、次回の外出先を比較検討していました。

それぞれの意見を主張している姿に「作業所という名称で運営していますが、皆で話あったり、手順を考えたり、自分たちで実践していく力を育てるのが目標です。次に繋げるための通過施設です。」という所長さんの野々垣さんの成果を見た気がしました。三名が就職した実績も、素晴らしいことです。

次のケアセンターふらっとでは、施設長の和田さんの介護にかける熱意あふれる話を伺いました。

「どんなに重い障害のある人でも在宅生活ができるように、医療的な処置も自分でできるように訓練しています。世田谷区のワーカーは全員、高次脳機能障害を理解しています。」とのこと。世田谷区以外の方からの来院も多いとのこと、これは他の地域ではこのような通所リハビリ施設が少なという現実を表していると思いました。

第6回高次脳機能障害者交流会報告

日時・・・平成20年5月22日(土)
場所・参加数・・・千葉市八木ホール/110名

当日の様子を紹介いたします。1つ目の講演は「家族が中心となって『活動の場』や『働く場』づくりを主体的に取組まれた北北海道の脳外傷友の会、コロポックル」から中野匡平代表が講演してくださいました。

中野代表の講演を聞き、高次脳機能障害者について理解を深め、自ら行動していくことの大切さを感じられた「家族やこれまでの努力に共感して、自分の体験を重ねながら聞かれたりされた」と話されていた「家族もいっしょにやりました」。

家族会や活動の場作りについて制限なく、いろいろな参考となるお話をいただきました。さらに詳しく聞いていくには、コロポックルのホームページ(<http://www.3.dion.ne.jp/~koropo/index.html>)をご覧ください。

2つ目の講演は「小児の高次脳機能障害を中心」として当センター小児神経科の佐藤医師から話をしてくれました。小児の支援として「発達との関係」「受傷・発症前の体験していることが成人より少ないこと」「学校・いじめハトリの場となる活動場があること」から情報提供や連携のあり方、障害の症状の説明とともに「高次脳機能障害を持つ児」に対する配慮について話していることが話されました。この講演の後、第2部の小児グループの意見交換会は「活発」に行われておりました。

第3部として意見交換の場として小児、更生園、成人に分かれて分科会を開催しました。時間も少なく十分に話ができなかったグループもあり、参加された方には満足いただけなかったところもあり、迷惑をおかけしてしまいましたが次回以降のことでもう一度聞いてみたいと思います。第7回高次脳機能交流会も計画予定です。詳細が決まりましたらこの掲示板でもお知らせしますので、ぜひ参加ください。

地域連携部 相談室

市市高次脳障害者の取り組み発表会

市市障害者地域生活支援センターでは、高次脳機能障害者に関する様々な分野の支援者が集まる機会として、「高次脳機能障害者の支援者会議」を呼びかけ、月1回のペースで行われています。これまでの学習会では「実際に関わっているケース支援」についての検討をしながら進め、「支援計画を立てる」その計画に基づいて通所施設で取組む「施設で試みたこと」学習会での計画の見直しをする、また自身直した計画に基づいて支援を実施する、というように行われてきました。

その学習会を通り、あらためて自立に向けた支援をしてきたことにより、ますます本人・家族の変化や支援者の関わり方の変化などへの気づきがあったことへの報告となる発表会が平成20年5月27日に行われました。

報告ケースは「歩くこと」へのこだわりがみられ、施設の活動プログラムになかなか入らない方が多かったプログラムにのりこめることができるのか?と悩んでいたケースでした。学習会では「歩くこと」にこだわっているのはどうしてだろうか?ということから話し、そのプログラムを本人にもっとわかりやすく伝えることが必要なのではないか?などの検討をしながら、いろいろなアイデアを出し合い、その結果をヒントにしながら現場で工夫を加え、外的補助手段の活用などを試みることに取り組みを取り入れていったケースでした。こうしたことの繰返しにより、高次脳機能障害から生じる問題を「確認・整理し、徐々にステップ・プログラムなどの活用を取り入れること」が実現していきました。

この発表は、支援者側の気づきや工夫について、他の支援者たちにも入りにくく、また発表が今更なものであったと思います。本人も今までと違って自分で行動できることが増えたことが実感でき、自信につながった様子が見え、形として見える報告でした。

日常的に関わっているからわかる変化がある反面、少しずつの変化に気づきにくいところも少なくありません。この学習会では、他の様々な立場からの支援者の参加があることにより、直接関わる支援者だけでなく、気づきにくいような発表する場となっていくように感じました。

地域連携部 相談室



焦生まし
にの載し
焦生まし
にの載し
焦生まし
にの載し
焦生まし
にの載し

ウォーキングは有酸素運動です。脳(特に前頭葉)に新鮮な酸素を取り入れる事ができます。血液量も増加し、脳を活発にする効果があります。ご存知の方も多いと思います。特に高次脳機能障害に問題がある場合『モチベーション(動機づけ)』をどう保つかが難しい方が多い印象を受けます。こんな工夫を試してみるといいかもしれません。

【脳に刺激を与えるウォーキングのコツ】

- ・ 歩くコース、距離など歩くパターンに変化をつける(たまには遠出してみるのも?!)
- ・ 他の人と一緒に歩く(おしゃべりしながら歩く)と効果的!)
- ・ 意欲向上につながる目標を設定する(ウォーキング大会などに出席する)
- ・ 毎回の変化を記録する(道ばたの花をデジタルカメラに取りながら歩くのはいかがですか?)
- ・ 途中の風景をスケッチしたり、俳句を詠んだりする(かなりハイレベル!)

ウォーキング中に音楽を聞いたり、携帯で写真を撮って、それをメールするなんていいかもしれませんね!実は歩くのが苦手な私(理学療法士なのに・・・)ですが、患者さんと一緒に歩いているのかもしれない・・・。

理学療法士 日下 奈美

インフォメーション・おしらせ

information

東葛 菜の花(高次脳機能障害者と家族の会) 6月例会・勉強会のおしらせ

日時 2008年6月22日(日) 13:30-15:30
 会場 松戸市健康福祉会館ふれあい22 3F
 松戸市五香西3-7-1 047-383-7111
 内容 「~高次脳機能障害~その実情と対応を学ぶ」講師 心理発達治療士 太田令子先生 千葉リハビリテーションセンター地域連携部長
 問合せ 世話人 なつき Tel・fax047-369-0182
 柏市地域生活支援センター「あいネット」
 Tel04-7165-8707 fax04-7165-8709

第8回千葉県千葉リハビリテーション センター公開講座

日時 2008年7月12日(土) 10:00~16:00
 会場 千葉リハビリテーションセンター大ホール他
 〒266-0005 千葉市緑区誉田町1-45-2(JR外房線鎌取駅下車センターバス5分) 043-291-1831
 内容 午前就労に関わる機関の紹介 午後「身体障害者と就労~働き続けるために~」基調講演 講師 箕輪優子氏 シンポジウム
 問合せ 千葉県千葉リハビリテーションセンター地域支援室 043-291-1831(代)内線 183

第4回高次脳機能障害 リハビリテーション千葉懇話会

日時 2008年9月16日(火)18:30
 会場 バリエホール芙蓉(5F) Tel043-227-1195
 JR千葉駅東口バリエ1(ファッション館)
 参加費 未定(詳細わかり次第お知らせします)
 内容 未定(詳細わかり次第お知らせします)
 問合せ 千葉県千葉リハビリテーションセンター相談室 Tel043-291-1831(代)内線 177

第32回日本高次脳機能障害学会 (旧日本失語症学会)学術総会

日時 2008年11月19日(水)・20日(木)
 会場 愛媛県県民文化会館
 松山市道後町2-5-1
 参加費 一般10000円・学生5000円
 内容 メインテーマ「臨床の技(スキル)」
 URL <http://jshbd32.umin.jp/>



平成19年度
できました!

平成19年度千葉県高次脳機能障害支援普及事業の報告書が出来上がりました。関係各位にすでに配布済みですが、掲示板をご覧の方々にもご希望であれば配布いたします。ご希望の方は下記までご連絡ください。
 問合せ 千葉リハビリテーションセンター地域支援室
 Tel043-291-1831(代)内線 182

編集後記

今号から、新しく書籍紹介のコーナーをスタートしました。できるだけ新しい書籍紹介をしていく予定ですが、ご家族が読まれた感想などによる紹介も行っていきたく思いますので、ご協力をお願いいたします。年3回の発行のため、タイムリーに話題提供をいただくことは難しいかもしれませんが、掲載できる記事がありましたら寄稿していただくことも大歓迎です。ご一報ください。話は変わりますが、このような形で写真が載せられるとは思っておらず、ビックリ!! また、次号お楽しみに。(M)

初! 左上の報告書を持ちながら微笑む方が掲示板の編集長のMさんです。毎回大切に追われ、編集長の影が薄くなる存在と言っているのですが、報告書の写真を撮るからそこに立つて下さい!と言いつつ密かに今月号に掲載してしまいました。自慢のキャンプで鍛えた体?は残念ながら披露できませんでしたが、雰囲気は味わってもらえたでしょうか...さて発行時期、世の中は梅雨の真っ最中!今年も早い梅雨の入りでしたがその分夏が長そうですね。みなさん、体調を崩さずして下さい。次回の発行は11月になります。(Y)

ピールが美味しい季節じゃのう

絵・クウタ

こ~じのう掲示板ではご意見、ご感想、情報をお待ちしております! お送り頂いたものは掲示板に役立てていきたいと思っております。
 宛先メールアドレス kouji@chiba-reha.jp